

COEその他の大型資金時代と 物性研究資金

物性研 家 泰弘

科学技術基本計画 総合科学技術会議

研究開発予算の大幅な伸び. 特に競争的資金

安部政権発足 ⇒ 猫も杓子もイノベーション

省庁合併: 文部科学省 ⇒ 文部省カルチャーと科学技術庁カルチャー

国立大学法人化 ⇒ 競争的環境, 基盤的予算の漸減, 生き残り戦略

科学研究費補助金をめぐる最近の動き (順風と逆風)

「不正使用・不正行為」問題, 「過度の集中」批判

投資が社会に還元されているか?

物性拠点整備計画について

科学技術基本計画

- **科学技術予算の大幅な増額**
科学技術予算の対GDP比を欧米先進国並みに近づける
一期(5年)で20~25兆円の投資
- **科学技術総合会議(司令塔)**
司令塔があまり細かいことに口出しするところくない
- **文部科学省 省庁合併**
学術振興会(JSPS), 科学技術振興機構(JST)
科学技術・学術審議会 「科学技術」~科技庁 「学術」~文部省
学術分科会
 - 研究費部会
 - 審査部会
 - 学術研究推進部会
 - 研究環境基盤部会
 - 学術情報基盤作業部会
 -

競争的資金(H18)

- 国の競争的資金 4,701億円
 - 科学研究費補助金 40.3% (1,895億円)
 - 戦略的創造研究推進事業 10.2%
 - CREST, SORST, ERATO
 - 科学技術振興調整費 8.5%
 - 21世紀COEプログラム 8.0%
 - 厚生労働科学研究費補助金 8.5%
 - 経済産業省産業技術研究助成事業(NEDO)
 - その他

青色は文部省所管の競争的資金

学術分科会における議論

報告書「研究の多様性を支える学術政策」

デュアルサポートシステム

基盤的経費の確実な措置の上に立った多様なファンディングの拡充

「学術研究」 ボトムアップ 政策誘導型(トップダウン)研究活動に対比するものとしての学術研究の重要性

報告書「科学研究費補助金のあり方について」

「学術研究」を支える唯一のファンディングシステム

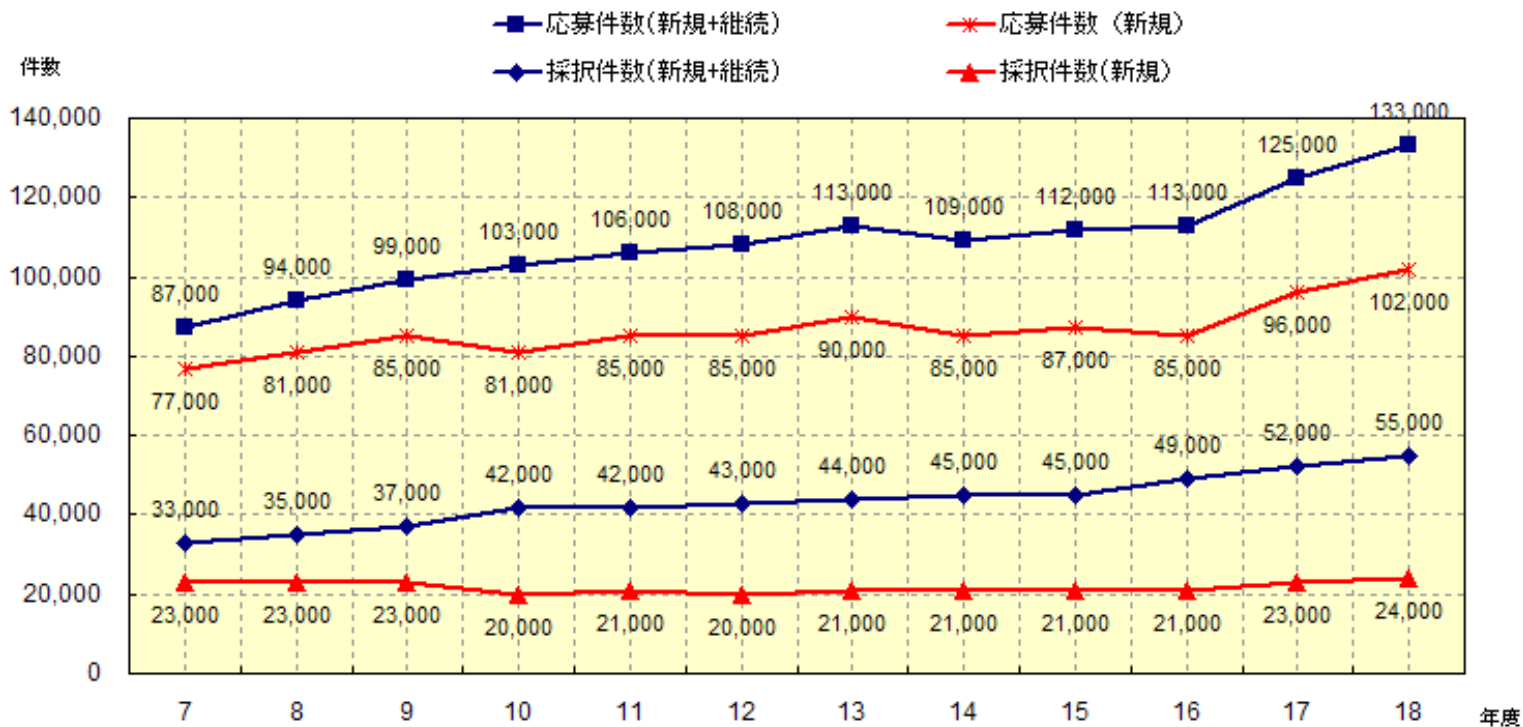
研究者の自由な発想

人文科学も含む全分野

ピアレビューによる審査

科研費予算・採択率

年度	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
予算額(億円)	736	824	924	1,018	1,122	1,179	1,314	1,419	1,580	1,703	1,765	1,830	1,880	1,895
前年度伸び率(%)	13.9	12.0	12.1	10.2	10.2	5.1	11.5	8.0	11.3	7.8	3.6	3.7	2.7	0.8
※指数								1.00	1.11	1.20	1.24	1.29	1.32	1.34



年度	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
採択率(%)	27.4	28.6	29.4	28.3	27.1	24.8	24.3	23.9	23.1	24.6	23.7	24.8	24.0	23.5
充足率(%)	74.5	74.0	74.9	74.6	72.3	71.5	74.7	77.2	78.2	76.1	76.2	76.5	76.4	77.5

科研費に対する財政当局からのツツコミ

本当に良いものを厳選しているのか？

「ばらまき」批判 少額の費目は不要では？

応募件数が多すぎるのでは？

本当に適正に執行しているのか？

不正使用の問題 ⇒ 機関管理の徹底, 罰則強化

制度上の重複があるのではないか？

JSPSとJST 特に大型研究費

「特定領域研究」批判 ボス支配, なれあい

重複投資があるのではないか？

「過度の集中」批判 funding agencyの一元化？

「エフォート」管理 エフォート率

共同利用経費 ⇒ 競争的資金を増やしたの

だから自己負担せよ

科研費の拡充（研究費部会）

- 採択率を上げられるよう、予算を増額するのが本筋
- 平均研究期間を3年として、新規応募の採択率が33%に達すれば、潜在的応募者の6割がサポートを受ける計算になる。
- 現状は20%台前半。
- 目先を変えずに予算増額を財政当局に納得させることは難しい（官僚マインド）。

平成19年度概算要求事項

- 間接経費を措置する研究種目の拡大
 - 基盤研究B, Cにも間接経費 ⇒ 162億円必要
 - 「逆風」を利用する
- 若手研究者の自立支援.
 - 若手スタートアップ
 - 若手研究Sの新設(?)
- 審査・評価体制の充実
- 学術振興会への更なる移管
- 電子システム化の推進

次期「COE」の動き

21世紀COE（現行274拠点）

⇒ グローバルCOE

卓越した国際教育研究拠点（150拠点程度）

⇒ 世界トップレベル研究拠点

トップレベル研究拠点の加速（30拠点程度）

科学技術振興調整費

平成19年度概算要求額：47,400百万円
（平成18年度予算額）：39,800百万円

○新規公募プログラム （7,600百万円）

世界トップレベル研究拠点の構築

各分野において高いレベルに達している研究拠点に対して資金を集中投入することにより、世界トップレベルの研究拠点の形成を加速

○継続公募プログラム（39,800百万円）

平成18年度創設のプログラム

若手研究者の自立的な研究環境整備促進

テニューア・トラック制に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みを導入

女性研究者支援モデル育成

女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、研究活動を継続するための支援を行う仕組みを導入

先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

先端的融合領域において、産学官の協働による、将来的な実用化を見据えた基礎的段階からの研究開発を行う拠点を形成

地域再生人材創出拠点の形成

将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向けた、地域再生のための人材を創出する拠点を形成

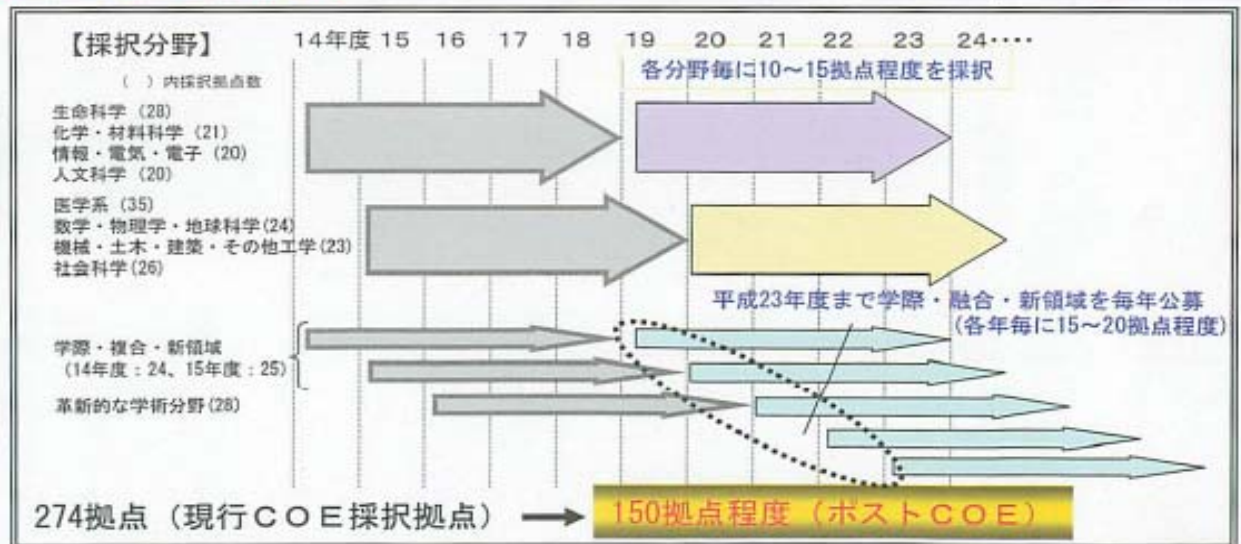
グローバルCOEプログラム(ポスト「21世紀COEプログラム」)

(新規)
平成19年度概算要求 23,087百万円

- ★「21世紀COEプログラム」の成果(大学改革・教育・研究)を踏まえ、
これまでの基本的な考え方を継承しつつ、さらに支援を充実し、飛躍的な発展を目指す
- ★中教審答申(「我が国の高等教育の将来像」(平成17年1月)、「新時代の大学院教育」(平成17年9月))を踏まえた大学改革を推進
- ★卓越した国際的教育研究拠点をより重点的に支援
274拠点(現行COE採択拠点数) ⇒ 150拠点程度(ポストCOE) 支援規模:5千万~5億円/年
- ★新たな学問的ニーズに対応するため、学際・融合・新領域については、毎年公募
- ★全分野で新たに公募(現行COEの卓越した拠点は継続させつつ、新規性・将来性も考慮した多角的視点により審査)
- ★若手研究者や博士課程の学生が独立して研究に専念できる環境の整備や経済的支援の強化、国内外の優れた研究機関との連携や海外の優れた研究者の招聘促進
- ★国際競争力を評価するための審査・評価体制の強化(審査・評価に外国人研究者等を積極的に登用)

《審査の視点》

- ①教育研究活動実績や将来性
- ②拠点形成計画の内容(特に国際的であるという点を重視、**特色に応じたオンリーワンの教育研究活動を世界に発信するなどの視点にも配慮**)
- ③大学としての教育研究推進方策
- ④大学としての若手研究者(特に助教)支援体制



物性研究拠点整備計画

- 第16期 物研連対外報告
「物性研究拠点整備計画」
- 第17～18期 物性専門委員会報告
「物性研究拠点整備計画の具体化に向けて」
各大学における概算要求に多少は役に立ったか.
- 第18～19期
研究機関課の地盤沈下, 国立大学法人化,
COE21などの新しい動きに圧倒されて, 拠点整備
計画の議論はやや下火に.
しかし, 法人化による研究環境の変化を踏まえて拠
点整備計画には新たな意義があるはず.

まとめ

- 科研費をめぐる最近の情勢
 - 科学技術基本計画に即した予算増額の順風は依然としてある.
 - しかし、不正使用問題や、過度の集中批判など逆風をクリアする必要がある.
(研究者は必ずしも信用されていない)
- 物性研究拠点整備計画
 - 今期学会議の物一分科会で議論を進めてゆきたい. ⇒ 物性委員会との連携